



真剣な面持ちでパズルに取り組む利用者さん（撮影：CAC 長田）

《症例検討・114》

子供の布団

院長 清水 允熙

今回は、八十歳の女性Gさんの例です。

症状

Gさんは長男の家族と同居していましたが、五年ほど前から物忘れが始まりました。

現在の症状は

- 便失禁があること
- 時間や場所がわからないこと
- 食べたことを忘れること
- 裸足で外へ出ること
- 家族の顔がわからないこと
- 長男の嫁をお手伝いさんと思っていること
- 自分の布団の隣に小さな布団を敷いて寝ることなどです。

## 経過

入院中のGさんとは子供の話を繰り返しました。子供の写真を見せ、昔の玩具、風俗習慣などを絵本や写真で見えることを繰り返しました。Gさんの子供たちがまだ小さかったころの話を、

他のお年寄りを交えて話し、Gさんがわからない様子であったも話の中に入れてもらいました。話のわかる他のお年寄りに自分の息子たちの自慢話をしてもらうようにして、Gさんが「自分にも良い子がいる」と対抗意識を持つてくれるようにしました。

もらうために、八百屋でトマトやキュウリを見せました。魚屋でイカやタコを見せたり、駅へ行つて列車も見せ、衣料品店で子供服を買いました。昔、彼女の子供が欲しがったような商品が並べられている店を何軒も回りました。

対人不信、長男家族への不信を取り除くため、私たちがGさんとの約束を守り、希望、要求を優先させて対応しました。できるだけ多くの時間を私たちは一緒に過ごしました。病院の外へも出かけ、子供を思い出して

Gさんのお子さんたちは、年老いた親に対しての接し方を知らなかつただけで、もともと優しい人たちでした。

## メモ

問題はお手伝いさんです。長男の嫁をお手伝いさんと思つていますが、それを証明しています。お手伝いさんに姿を変えてはいますが、嫁が家に一緒にいることをGさんが認めているからです。

Gさんは嫁をお手伝いさんだと思ひ込んでいます。認知症の典型的な症状の一つに、働き盛りで多忙な息子が母親である自分を相手にしてくれないことを、嫁のせいにする症状があります。息子たちが相手にしてくれないので寂しい日々を送つておられる年寄り(女性)に多い症状です。このような場合、母親は嫁からこのように場合、母親は嫁から息子を取り返そうとします。「嫁はいらない」となります。そして、このときの表現は「嫁がお金を盗った」「嫁がご飯を食べさせてくれない」となります。嫁は悪い人だから、家に居てほしくないという意味です。Gさん

実現します。不安があれば不安が  
るほど、不安は実現します。怖  
がれば怖がるほど恐怖は実現し  
ます。それが認知症中程度のお  
年寄りの妄想・幻覚のあり方な  
のです。

Gさんは寢床の横に子供用の  
布団を用意します。私たちには  
布団しか見えませんが、そこには  
幼かったころの自分の子供が  
寝ています。寝つかずに騒いで  
いれば、Gさんは子供に繰り返  
し注意します。優しくて立派な  
人に育てなければとの若いころ  
の母としての義務感と愛情と自  
信をもって対応しています。

したがってこの今現在の症状  
は、子供たちのGさんへの配慮  
が昔に比べると尻すぼみになっ  
てしまっているときの症状です。  
夢と希望を失い、自己実現と存  
在価値を失い、Gさんは生きて  
いく理由がなくなっている状態  
なのです。

Gさんの症状を改善するため  
には、子供の老いた母親への対  
し方を考えてもらうことが大切  
になります。



## 新聞 読

新聞一六六号を読んでくだ  
さった読者様からのご感想  
を紹介いたします。

- ・表紙の写真は貴院の優しさ  
を象徴したような、とて  
もいい写真ですね。
- ・院長先生はじめ職員の皆様、  
利用者の方々の顔が思い浮  
かぶような新聞です。
- ・読ませていただき、一人ひ  
とりの入所者の尊厳を大  
切にする姿勢が伝わって  
きました。大変な時期を  
くぐりながら、継続され  
ていることに敬意を表し  
ます。

## 感想・原稿募集

左記のとおり、原稿や感想を  
募集いたします。ご家族の日ご  
ろの悩みや利用者様への思い、  
本誌を読んだ感想など、ご自由  
にお寄せください。

### 《内容》

- ・原稿(四〇〇〜八〇〇字程度)
- ・コラム(写真やイラストが  
あるとなお可)
- ・感想文やコメントなど
- 《締切》
- ・令和四年七月三十一日  
(一六八号掲載分)
- ・切に関係なく随時受付して  
おります。

### 《送り先》

富士山麓病院介護医療院  
〒412-0006  
静岡県御殿場市中畑1932  
新聞編集担当まで  
Fax : 0550-89-8017  
Mail : k-team@ninchisyo.jp



## パーソン・センター・ケア

介護職員 山下 健

突然ですが、もしあなたが認知症になり施設や病院に入るとしたら、どんなことを望み、どんな生活をされたいですか？

多くの方が「私は認知症にならないし…」と回答されるのではないのでしょうか？

日本における認知症高齢者人口に関する研究では、二〇二〇年の六五歳以上の高齢者の認知症有病率は一六・七%、約六〇二万人となっており、六人に一人程度が認知症有病者と言われています。

更に世界では、二〇一五年で認知症有病者数は五千万人、そして毎年一千万人近くが新たに認知症になるというWHO（世界保健機構）からの報告もあります。

これを一年、一日、一時間と

細かく割っていくと、約三秒に一人が世界のどこかで新たに認知症になっている計算です。

つまり、六五歳以上になると認知症になり施設や病院に入所または入院される可能性は高く、他人事ではなくいずれ私も…と考えてみるほうが自然なのかもしれませんね。

では、最初の質問に戻ります！もし貴方が認知症になり施設や病院に入るとしたら…どんなことを望み、どんな生活をされたいですか？

すると多分「私は休日の朝はパンとコーヒーだったから、施設や病院に入ったとしてもそれは変えてほしくない！」とか「贅沢なことは言わないからせめてお酒かタバコを…」なんて方もいらつしやると思います。もちろん集団生活の中でこれらを全部かなえることはなかなかできません。

でもなぜ休日の朝はパンとコーヒーが良いのか？ 多分こ

の方は、連日多忙の中で休日ぐらいいはゆっくり軽いものを召し上がって寛ぐのが癒しだったのではないかと。もしくは休日家族と過ごした楽しい時間について、もコーヒーやパンの香りがして、その楽しい時間を思い出すからなど、お酒やタバコはどんな生活でどんなシチュエーションで？ 同じ事柄でも、そのお酒とタバコは一人静かに？ それともみんなでワイワイと居酒屋で？ それに代わる何かをして差し上げられないだろうか？ など、自分のことをよく調べて考えて、優しいケアをしてくれる施設に入りたいと思いませんか？

以上の考え方は、パーソン・センタード・ケアという比較的新しい介護ケアの考え方ですが「パーソン・センタード・ケア」とは、その名前の通りその人を中心としたケアです。

認知症を持つ利用者様を、一律にとらえるのではなく、あく

までも一人の「人」として尊重していくというケアです。

どんな人間にも人柄や個性があり、これまでの生き甲斐や考え方、人間関係など、さまざまな要素を踏まえてケアを行っていく考え方です。

実は同じような考え方が、すでに僕が入職した二五年前には院長先生のもと富士山麓病院で行われておりました。

このような施設で、利用者様が生きていきと終の棲家として過ごせるよう、これからも日々試行錯誤していきたく思っています。



## 看取りの経験から

### 感じたいと

看護職員 勝亦 徳子

私が勤務している三療養棟では、昨年从今年三月まで八名の方が看取り対象者となりケアをさせて頂きました。

私は看取り委員として、その一人一人に向き合ってきました。

そもそも看取りとは「無理な延命治療などは行わず高齢者が自然に亡くなられるまでの過程を見守ること」とされています。ここで重要になってくるのがその人がどうしたいのかという本人の意向、そしてご家族の意向です。

当施設では、重度の認知症で自分の意思を他者に伝えることができない利用者様が多いです。そんな時にはご家族に最後をどう迎えたいか、本人の好きだった食べ物や音楽、趣味だったこ

などを聞き取り、それらを日々のケアにさまざまな形で取り入れていきます。

例えばコーヒーが好きだったという利用者様にはコーヒーをお茶の代わりに提供しました。

最初は「美味しい」と言ってお飲んでくれましたが、次第に「もういらぬ」と拒否されるようになりました。これはどうしたらよいか？ とスタッフで話し合い、考えました。

次に普段口腔ケアに使用している捲綿子（注）をコーヒーに浸し凍らせたアイス棒を作り、味を感じてもらおうことを考えつきました。

最初はアイス棒をなめることができましたが、次第に「もういらぬ」と拒否されるようになりました。

それでは匂いを感じてもらおうと、ベッドサイドにコーヒーの粉をカップに入れ嗅覚を刺激しました。

「コーヒーの匂いがするね」と香りを感じていただけました。

このように、利用者様の状況に応じて方法を変えることにより味覚や視覚、嗅覚で嗜好品を感じてもらうことができました。

また、現在コロナ禍で直接の面会ができないのですが、看取り対象の利用者様は時間・人数制限・感染対策を徹底したうえで面会していただいております。県外の方やご高齢の方などはオンライン面会を利用していただいております。

どのご家族にも「顔を見るのができてよかったです」と言っていただけです。

その中でも、ある男性利用者様のご長女のごことが印象に残っています。

両親が幼いころに離婚し、お父さんとは数十年間連絡を取っていないので「別にどうなってもいい」と思っていたそうです。

しかし異母兄弟から連絡を受け、オンライン面会が実現しました。数十年ぶりに見た父親の顔に涙を流し「お父さん、ありがとうね」と声をかけていたことを今でも鮮明に覚えています。看取りケアは決して特別なことをするわけではありません。普段の生活の中で、最後までその人らしく生きることお手伝いすることだということを感じました。

日々の業務に追われ忙しい毎日ですが「その人らしく生きられるにはどうしたらよいか」を常に考えながらケアしていきたいと思っています。

（注）捲綿子

木材や柔軟な金属の細い棒状の先端部分に脱脂綿を巻きつけたもの。

# 排泄介助

介護職員 青木 真一

介護の仕事の中で一番重要な介助とも言われる「排泄介助」。

排泄のお手伝いをするだけでなく、皮膚や排泄物の状態を確認することでその利用者様の体調を把握するための大切な役割を持っています。陰部や臀部などが清潔に保たれずにいると、健康に悪影響を及ぼすこともあります。

自分自身で排泄の行為や動作ができない方、もしくは排泄の機能に障害がある方を介助することで要介護者を清潔に保つだけではなく感染症予防にもなるため、介護において重要なケアとなります。

排泄介助する上で、注意する

ことがあります。他人に自分の下の世話をしてもらうことは誰でも嫌なもので、快く受け取る人はあまりいないでしょう。

また羞恥心や情けない気持ち、介助されることに罪悪感を覚えて心を閉ざしてしまう方も中にはいます。

利用者様の自尊心を傷つけないように「できるところは自分でやってみよう」。失敗してもいいじゃない！ 自分でできることが増えれば安心できるよう、手や肩に触れるなどのスキンシップをはかり、自尊心を傷つけないことが大切です。

今年度から当施設では「コンチネンスケア」の取り組みがスタートします。スウェーデンでは「誰でもがトイレで排泄する権利がある」といわれています。「コンチネンスケア」の考え方は主に以下の二つです。

(1)考えるケアの基盤作り

本人の思いを尊重したありたい姿、排泄用具の特性をいかしたケアパターン、暮らしのリズムの継続とケアの連続性の確保。(2)個々の課題解決

次の行き先を見据えた目標設定、多角的かつ科学的なアセスメント、多職種によるチームアプローチです。

新しく導入するオムツはトイレに行くことを前提にデザインされたオムツで下着と同じです。「問題解決」から「価値創造」へ。気持ちよく朝を迎え、笑顔あふれ、穏やかな時間を過ごそう。そのお手伝いができればと思います。

この新聞が発行される頃には、コンチネンスケアがスタートしていると思います。自分自身もまもなく還暦ですが、利用者様の立場に立ったケアができるよ

うに日々努力し学び自己研磨し、楽しく笑顔あふれる日々が過ごせるようお手伝いできればと思っています。



## 新聞読

・ 本山さんの転倒事故防止の取り組みは大切な報告だと感じた。事故に対する対策、防止への努力が日々続けられていることこそ、ご家族の安心、信頼につながると思うから。  
・ 表紙も敬老会のページも写っているのは女性ばかり。次号ではぜひ男性も登場させてください。



# お花見

CAC チーム  
安田 優子



温かい季節を迎えました。以

前はバスに乗って富士霊園へお花見に行っていました。が、新型コロナウイルス感染予防のため、未だ外出を見合わせています。

でも、当施設には他に負けない美しい桜があります。職員駐車場近辺とサンデッキです。

好天に恵まれた四月七日～一二日にかけて、ゆったりとお花見を楽しみました。

長く寒かった冬を乗り越えて、久しぶりに外へ。少しひんやりする空気が、背筋をピンとさせます。

「つわあ、寒い」と言いながらも、満開の桜を目にすると、みなさん、最高の笑顔です。

残念ながら外へ出られない利用者さんには居室へお持ちしました。

今居るこの場所で、できる限りのことをやっていきたいと思

# レクリエーションフォトギャラリー

節分



新年会



手芸



お誕生日会



そろばん・将棋



【施設紹介】③

# サンデッキ（中庭）と畑

今はさびしいアウトドア

長びくコロナ禍のため、この二年以上屋外での活動がほとんどできませんでした。

レクリエーションホールや「桂花」カフェと療養棟の間にある中庭を当施設では「サンデッキ」と呼んでいます。



一日も早く利用者さんとご家族の賑やかな歓声と笑いに包まれる日の来ることを願って、四月にプランターの土入れを行な

いました。マリーゴールド、サルビアなど花のほか、畑での作業が難しいため、キュウリ、ナス、ピーマンなど野菜も。

## サンデッキでの催し

コロナ前にはここで、桜の花見、夏まつり、焼き芋大会など、年間を通じてたくさん行事が行われてきました。写真はこれも二〇一九年の撮影です。



桜の下で勢ぞろいした男性陣。この時期には、職員駐車場でも見事な花が咲いて、見る人の目を楽しませてくれます。次の写真は夏まつりの様子です。ご家族も加わっての賑やかな催しになります。



## 畑の収穫がメニューに

施設のすぐ下には借りている畑があり、利用者さんが職員と一緒に畑仕事に取り組みます。

下の写真は一九年六月の撮影ですが、職員（左端）とともに二人の利用者さんが進めているのはどんな作業でしょうか。

これまでに収穫した野菜の種類は、ジャガイモ、サツマイモ、

ナス、ピーマン、枝豆、ミニトマト、シシトウなど。「成果」が栄養課の人たちによつてカレーや焼き芋となり、みなさんの口に入ります。



玄関脇には職員が植えたコスモスの道があり、「秋桜ロード」と呼ばれて親しまれています。

## 一日も早く屋外行事が再開できますように

これからは「ウイズコロナ」の時代と言われておりますが、各種イベント、行事が行なえる日が一日も早く来ることを「桂花カフェ」オープンと合わせて待つことにいたします。

## 御殿場 あれこれ ③

### ♪ ふじは日本一の山

あたまを雲の上に出し

四方の山を見おろして

かみなりさまを下にきく

ふじは日本一の山

おなじみ「ふじの山」は明治四三(一九一〇)年に制定された文部省唱歌の一つです。

富士山は同じ火口から複数回の噴火を繰り返すことでできた成層火山、円すい形の山容と広い裾野を持つのが特徴です。

北海道の羊蹄山(蝦夷富士)から鹿児島県の開聞岳(薩摩富士)まで全国に富士山に似た形の山は数多くありますが、三七七六・一二mという標高とその美しさで富士山に及ぶものはありません。

そこで日本中に「〇〇富士」の異名を持つ山が三二一座もあるそうです。埼玉県富士見市や各地にある富士見町や富士見台も古くからの富士山への憧れを表

わす地名でしょう。

二〇一三年に富士山はユネスコの世界遺産に認められました。白神山や屋久島、知床と同じ「自然遺産」ではなく「文化遺産」としての登録でした。その理由は「信仰の対象と芸術の源泉としての価値」が認められたからです。

火を噴く火山を御神体として遙拝する火山神(浅間神)信仰は奈良時代から広まりました。

富士山の南、静岡県富士宮市に鎮座する富士山本宮浅間(せんげん)神社は全国各地にある一三〇〇社にも及ぶ富士山信仰の中心です。

寺田寅彦によれば浅間(あさま)とは火山を表わす古語とのこと。長野・群馬県境の浅間山は今も活発な火山活動を続けていますが、浅間の語源はアイヌ語の「アソーオマイ」(火を噴

く燃える岩)に由来するとか。

修験道の開祖・役行者(えんのぎょうじゃ) 役小角)は七世紀に富士山で修行したと言われ、御殿場市増田の青龍寺は役行者の開基と伝えられています。

江戸時代には庶民の間に「富士講」が広まりましたが、本物に登るのは大変と富士山を模した小山や塚を築く「富士塚」が各地につくられました。

「芸術」の面では、奈良時代末期に成立した最古の和歌集『萬葉集』にある「田子の浦ゆ うちいでてみれば真白にぞ 富士の高嶺に雪は降りける」(山部赤人)以来実に多くの文芸作品に取り上げられてきました。

絵画では葛飾北斎の「富嶽三十六景」、近代以後も横山大観ほか多くの画家が描いています。

まさしく「信仰の対象と芸術の源泉・富士山」です。

\*

登山について私は語る資格がありません。昔から言う「一度も登らぬ馬鹿」の一人です。

クルマ社会の今は山梨県側の吉田口から登る人が多く、距離の長い御殿場ルートからの登山者は少ないらしい。しかし下山の際は標高差一〇〇〇mもの火山灰地を一気に駆け下る「大砂走り」が魅力のようです。

写真は群馬県の榛名(はるな)富士。清水院長や私が高崎南小六年生の時、修学旅行?で湖畔の「高原学校」に一泊しました。

どれほど遠くまで行ったかと言えば、合併で今は高崎市榛名湖町。戦争が終わって三年、日本中が貧しかった頃の話です。



(内藤 真治)

## ナミビアに暮らす 世界一美しいヒンバ族



↑ヒンバ族に迎え入れられる大鐘 Dr (写真中央)

医学博士・放射線科医 (核医学医)

大鐘 健一朗

日本から片道四八時間以上かけて、アフリカ南部ナミビア共和国に暮らす世界一美しいヒンバ族の村を訪問した。

彼らは赤土で全身を塗り、お香を漂わせている。植民地支配を経験しながらも伝統的な生活を維持し、地球温暖化による激しい乾燥の下でも、それに耐えて暮らしている。私も顔を赤土で塗り、一緒に踊り、伝統的な麦酒を頂き、暖かく迎え入れて頂いた。

「貧乏な人とは、少ししか物を持っていない人ではなく、無限の欲がありいくらあっても満足しない人のことだ」とのウルグアイ元大統領ムヒカ氏の言葉が思い出された。

### 編集後記

青葉生い茂る季節ですがコロナ禍はいまだ先が見えず、加えてロシアの武力侵攻でウクライナ国民の惨状が日々伝えられ、心痛む毎日です。

今ほど平和の大切さとうすれば平和が守れるかを考えさせられた時はないでしょう。今年も昭和の戦争が終わって七七年、逆に敗戦から七七年前は徳川幕府滅亡、新政府誕生の明治元年でした。

今回の一六七号では当院の大きな課題である「排泄介助」と「看取り」について実践記録を掲載することができました。今後も引き続き追求すべきテーマです。

新聞は書き手から読者への一方通行より、双方からの発信が大事と考え、埋め草の扱いながらメールや葉書で寄せられた感想を紹介しました。辛口の感想や注文も含め、これからもよろしくお願ひいたします。(内藤 真治)